

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2277101883
法人名	都メディカル有限会社
事業所名	グループホーム 一葉の家
所在地 (電話番号)	静岡県浜松市北区根洗町217番地 053-414-6500
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年8月18日

【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 17 人, 非常勤 9人, 常勤換算 18人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,700 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(平成20年7月31日現在)

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	10 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 77.9 歳	最低	57 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前嶋内科 鎌田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニットが平屋に配されて、庭や畑も広く敷地内で外気浴や散歩が楽しめるホームである。就任から2年、管理者は、自然の中で利用者に生きがいを感じてもらい、家族との絆を深める手伝いをすることがホームの役割と心得て、その姿勢は職員にも浸透している。内部運営に関しては職員との三者面談等により働きやすい職場作りを、また、地域においては運営推進会議の開催や地域交流への働きかけなど取り組んでいる。法人本部が近く、遠足時の自動車やカラオケ機械の調達等利用者へのサービスに活かしている。看護師や元消防士の職員が配置されていることは利用者や家族、職員にとって大きな安心である。まさに家庭的でありながら利用者本位のホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善課題とした項目は殆ど改善されている。地域密着型としての理念の創出、地域との交流を深める為の積極的な声掛け、運営推進会議の開催等々取り組みの跡が良く窺える。水分摂取量の記録については今後の課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価記入にあたっては、各ユニットでの取り組みとし、各ユニットでは職員に振り分けて全員での評価とした。解釈が難しい項目は介護支援専門員が説明し、最終的に管理者が纏めたものを職員が読んで話し合ったことにより、グループホームの役割を認識することが出来た。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区役所長寿保険課職員、介護相談員、地域包括支援センター、自治会副会長、利用者家族等をメンバーに、運営推進会議は3回開催されている。1回目は会議の意義やホームの紹介、2回目には医療機関からも参加していただき、ターミナルケアや24時間医療連携についての説明等、3回目には地域密着型サービスについて話し合われている。地域委員や家族が協力的であり、率直な話し合いがされて、地域での理解も徐々に深まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族はホームを訪問した時々に、利用者と共にカラオケを楽しんだり、食事介助をしたり、ホームの一員として気軽に参加している。ホームでは利用者や家族が意見・要望を言いやすい雰囲気作りに努めており、意見等にはカンファレンスで話し合って速やかに対応している。介護計画も家族アンケート回答者全員が「説明を受け共に話し合っている」と答えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して地域の行事等利用者が希望する行事に参加している。ホームの夏祭りには地域の方々へ案内を手渡しして交流のきっかけ作りをした。近所の夫妻がホームを見学に来たり、中学生の突然の訪問があったり、地域の方にも安心できる場所との認識が広まりつつある。ボランティアの訪問も多く利用者の暮らしに花を添えている。利用者にも無理のない地域密着型サービスに努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに相応しいホームの理念「自分の生きがいと安らぎがある 家族との絆を深め地域との関わりを大切にする 共に暮らす関係を築き穏やかに過ごす」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は入職の際に、理念を以っての介護支援を意識付けられており、日々のカンファレンスにおいても理念の実践について話し合っている。また、職員は管理者が家庭的でありながら、利用者本位でいる姿勢を常に見ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、お祭りやどんど焼に招待していただき、利用者全員が順番で参加している。ホームの夏祭りに地域の方々へ案内を手渡しで配布して交流のきっかけ作りに取り組んでいる。縁あってホームを訪れた子供との交流も大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎で全員に振り分け、話し合い、自己評価を作成している。「自分の行う介護と、評価で求められていることを比較することが出来た」、「グループホームでの暮らしの意味を理解し自己の介護の見直しになった」など職員の感想があった。グループホームの役割を認識し、サービスの質を振り返る機会として活用されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は取り組みの開始が遅れたが、現在までに3回開催されている。地域役員が協力的で毎回出席してグループホームの役割や意義、また防災等について理解を深めている。家族からは地域密着型の目的を理解したうえで、交流が難しい利用者にとっての地域はホームであるとの見解も出ている。	○	利用者の状態や要望に沿った本人本位の支援のためには多面的な意見交換が不可欠である。今後も運営推進会議では様々な意見が自由な雰囲気の中で交わされて利用者へのサービス向上に繋がるよう活用されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れている。社会福祉課と相談しながら支援している利用者が多いことから、市との連携は欠かせない。利用者の要望と行政の間に立ち、支援と制度が最大限活かされるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問の際、利用者の様子を伝えている。健康状態についてはその都度個々に応じた報告をしている。暮らしの様子を伝える写真入りの「ほほえみだより」が定期的に発行され家族に届けられ、金銭管理は出納帳にて明確にし家族に確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満を感じたときにホームに対し表わしやすいように日ごろから雰囲気作りに努めている。また家族は率直に意見を出してくれるのでカンファレンスで話し合い改善に努めている。食事時に来合わせた家族が食事介助をすることもあり家族と共に運営している姿勢が窺える。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐ為に、管理者・介護支援専門員・職員の三者面談の機会を設けたり、職員の希望を優先した勤務ローテーションにより働きやすい職場作りに取り組んでいる。現在職員はほぼ定着しており馴染みの職員による支援がされている。来春には寿退社が予定される職員がいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による採用時および定期的な研修を受講しており、レポート提出等自己研鑽の機会もある。介護に関する新しい情報を職員が習得できるよう書籍等購入したり、資格取得のための資料提供や勤務の調整にも配慮している。看護師や元消防士の職員によるミニ勉強会も定期的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人の会議や地域情報交換会等に出席して交流の機会を持っている。職員が他の施設職員と相互訪問等により交流する機会は少ない。	○	毎日直接利用者と接している職員が、他ホームとの交換研修や合同勉強会の機会を持つことにより気づきを得ることは少なくない。法人グループのネットワークを活かし、交換実習・研修などの積極的な取り組みを期待し、他ホームとの交流実現によりさらなるサービスの質の向上が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には本人に何回も遊びに来ていただき、ホームの雰囲気を感じていただいている。また入居しても合わないと感じたときには適すると思われるホームを紹介し移っていただくよう本人の気持ちを尊重している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には様々な特技を持つ方も多く、職員はマッサージをしてもらったり、一緒に草取りをしたり、花を生けてもらったりしている。若い職員は利用者から昔の話を聞いていただくことが楽しみであり、利用者からいただく感謝の言葉は介護の仕事への原動力となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者ひとり一人の意思を尊重し、思いや意向の把握に努めている。調査訪問日に宗教信仰者の利用者の思いをホーム側が受け入れ対応し、利用者が落ち着いた1例を確認する事ができた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、その他関係者と充分話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。毎週1回ユニットごとにケアカンファレンスを行い、利用者の変化に対応した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回、必ずモニタリングを行い、期間に関係なく必要に応じて本人や家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への柔軟な支援はもとより、職員が病院への付き添いをしたり、24時間医療連携を活かして利用者が安心して生活できる様配慮している。訪問マッサージを受けている利用者もいる。また、外出や外泊の支援も積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の医療も受けられる。また、協力医療機関が複数あり、本人や家族の希望により選択できる。往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対するホーム側の対応指針があり、本人と家族の意向を聞き入れ、ホームの対応の仕方を職員、看護師、医師も含め充分話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に、個人情報の取り扱いについて家族に同意を書面で取っている。職員は利用者を尊重した対応を心掛け、声掛けやその人らしく暮らせるような対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の1日の生活パターンはできているが、ゆっくりのんびりを意識して利用者一人ひとりのペースや希望を大切に自立に向けた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼夕食は弁当を利用しているが、食器や盛り付け、食事形態を利用者に合わせたり、手作り料理を1品加えるなど工夫している。週末は利用者の希望を聞き、利用者と職員と一緒に準備から片付けまでやり、食事を楽しんでいる。	○	利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じもので楽しく食べる事が大切である。介助する・介助される一方という形にならないように、一緒に食事を楽しむ雰囲気や関わりのあり方を職員で検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴は週3回で入浴時間も決められているが、利用者の希望により柔軟に対応し清潔に気持ちよく過ごしていただいている。入浴方法もシャワー浴や湯舟浴など利用者の自由である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は洗濯干しや洗濯たたみ、草取りなど利用者各人が発揮する場面を作っている。利用者はパズルやオルガン、カラオケ等、また、移動図書館で借りてきた本を読んだり各人が自由に楽しんでいる。職員の見守りの中喫煙を楽しむ利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物外の広い敷地を利用して、気軽に外のベンチに座ったり外気浴を楽しむことができる。また、利用者の希望により1周20～30分の散歩コースに出かけたり、買い物や外食など楽しんでいる。花見や遠足などのイベントも行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけることなく、職員の見守りで利用者は館内、館外区別なく自由に行き来できる。外に出て行く利用者に対しても止めることなく、声をかけ一緒に出かけ自由な暮らしをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の説明を受けている。また、元消防士の職員の指導の下、頻繁に勉強会を開き全職員の意識向上に努めている。	○	運営推進会議を通じて自治会との良い関係が築かれているので、地域防災訓練参加に向け更なる話し合いを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態にあった食事形態を考え、おかゆ、きざみ食、ミキサー食にし、見栄えや彩りにも配慮して食が進むように工夫している。食事の摂取状況を毎日チェック表に記録して職員が把握できるようにしている。	○	お弁当利用の為揚げ物が多いが、衣をとるなど工夫している。しかし、弁当食や週末の希望食も含め定期的に栄養の専門的な指導・点検を検討いただきたい。また、水分摂取量についても全職員が把握できる様、記録方法を検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く木材が多く使用され、開放感があり光がたくさん入り明るい。テーブルや椅子、ソファ、テレビが置かれ居心地よく過ごせるよう工夫している。壁にはホーム行事の写真や季節感のある作品などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前から使っていたタンスがあったり、オルガンなどの使い慣れた馴染みの物が持ち込まれていた。利用者の大切な写真を職員が手作りのフレームで飾りつけ、居室に飾るなど本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		